

平成27年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（空知南学区）

平成27年4月15日

於 岩見沢市

< 発言要旨 >

夕張市教育委員会の小林であります。

「新たな高校教育に関する指針」に基づく高等学校の再編整備も9年目を迎えようとしています。

夕張市も中学卒業生が平成18年度には84名が、現在中学3年生39名という状況にあり、児童生徒数の減少は極めて急速であり、今後もこの傾向は続くものと思われます。

そのような中、昨年度の中学卒業生が65名と多いことから平成27年度夕張高校2学級間口としていただいたものの、結果として39名ということで1間口しか確保できなかったことについては、申し訳なく思うところです。今後、高校対策委員会でも、地元高校への進学率が減少していることについては詳細な分析をしてまいります。地元には高校がなければ、高校教育を保証できない生徒がいることも事実であります。

地元の教育委員会として、小・中・高の連携、出前授業、オープンスクールなどいろいろと今日まで進めてきたところでありますが、地元夕張高校の良さや実績、一人一人に寄り添った教育課程の編成など、もう一歩進んで市民、生徒に理解、説明を求める行動が必要と考えているところであります。

北海道の広域性や地理的状況を考えると、私どものような過疎、小規模高校は今後も増加の傾向にあり、いわゆる、「センター校・キャンパス校」の条件整備ももっともっと充実させるべきと思うものであります。遠隔授業、出張授業に係る教員加配、臨時講師、非常勤講師の拡充を通して、たとえ少人数であっても「進学にも就職にも応えうる高校」が市民の声であり、願いでもあります。

今後、「キャンパス校・センター校」の問題については、色々と市民的にも大きな議論をしていかなければならない課題と考えているところであり、道教委には、今後の対応については、丁寧な説明と理解を得る努力を惜しまず、お力をいただきますようお願いし、発言とさせていただきます。